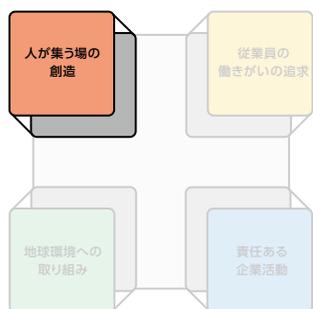


人が集う場の創造



人が集う場の創造

「豊かな発想と確かな品質で、人が集う環境づくりを通して、社会に貢献する。」をオカムラグループのミッションとし、人が集まる場に新しい価値をつくる会社として進化します。

CONTENTS

人が集まる場に新しい価値をつくる	42
製品開発におけるクオリティの追求	43
空間創造におけるクオリティの追求	50
品質管理の徹底	54
ものづくりを支える人財育成	56

SDGsに貢献



人が集まる場に新しい価値をつくる

オカムラグループは、「よい品は結局おトクです」をモットーに、グローバルな視野で品質と安全性の向上に努めると同時に、お客様のニーズに的確に対応しながら、オフィスをはじめ教育・医療・研究・商業・物流施設などさまざまなシーンにおいて、製品のあるべき姿と最適な空間づくりを追求し続けます。新たな視点から、働くことに関する調査・研究を行うとともに、共創による新たな事業の創出や情報発信を通して、新たな価値を創造していきます。

「よい品は結局おトクです」：オカムラグループの創業初期の頃からのモットー。デザイン性・機能性・安全性を兼ね備えた良質な製品をお客様にお届けすることが結局はお客様の利益(トク)になる、という信念のもと企業活動を行っています。

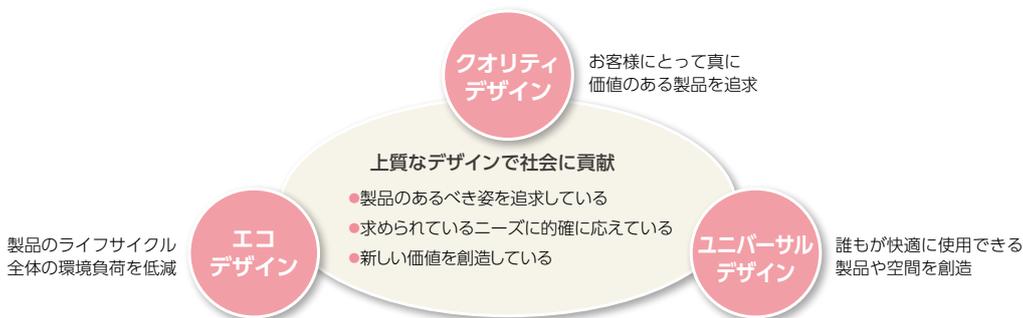
人が集う場の創造

製品開発におけるクオリティの追求

オカムラグループは、誰もが豊かさを実感でき、次代へよりよい環境を引き継げるよう、ものづくりにこだわり、上質なデザインの実現をめざしています。

創業以来「人間の環境づくり」をテーマに培ってきたハードとソフトに関するノウハウをベースに、さまざまなシーンにおいて魅力ある環境を創造していきます。その実現のためには、「クオリティデザイン」「エコデザイン」「ユニバーサルデザイン」の3つの視点が重要であるという考えに基づき、製品開発を進めています。

オカムラグループのデザインポリシー



クオリティデザインの追求

オカムラグループは製品の本質を追求し、お客様にとって真に価値ある製品を提供することをめざしています。製品のあるべき姿を求めて、ものづくりをきわめ、魅力ある新たな価値を創造します。

具体的には、安全性の確保はもとより、人間工学*に基づいた設計をはじめ、快適性の向上、創造性を高める環境の実現などに取

り組み、常にお客様のニーズに的確に応えられるような製品開発を行っています。

* 人間工学：人間の身体的、認知的、組織的な特性を理解し、様々な製品・環境・サービスに適応させるための科学分野

TOPICS

荷物預かり需要と人手不足への対応を支援するシステムの開発

近年、インバウンドの増加などから、重く大きな荷物を持った旅行者が増えており、駅や空港、バスターミナルなど多くの人が集まるパブリック空間では、コインロッカーや荷物預かり所など一時的に荷物を預ける場所が不足しています。また、ホテルや国際展示場などでは荷物預かり業務の負荷が増え、人手不足も課題になっています。こうした状況を改善すべく、オカムラは自動搬送型荷物保管システム「BAGGAGE KEEPER (バゲッジ キーパー)」を開発しました。

「BAGGAGE KEEPER」は、荷物を収納する大・小の収納ボックスが並んだラック、荷物の搬送機、荷物の出し入れ口と無人受付を行う操作部で構成されており、利用者が預けた荷物を収納ボックスでラックへ自動搬送し保管する仕組みになっています。手が届かない高さにも荷物を収納できるため収納効率に優れており、同じ床面積のコインロッカーに比べ約1.4倍の収納が可能です。また、荷物の預け入れ・取り出しは、利用者がタッチパネルを操作して行うため、利用の時間帯を問わず無人で荷物預かり業務ができます。さらに、多言語での表示や音声ガイダンスにも対応する予定です。荷物の預け入れ・取り出し時は出し入れ口まで荷物が自動搬送されるため、重い荷物を上げ下ろしする必要がありません。

優れた収納効率による省スペースと、無人で利用時間を問わない受付対応により、預け場所不足、人手不足の解消が期待できます。



人が集う場の創造

◆ 働く人と環境にやさしい店舗づくり

店舗においては、タイムリーな商品補充、季節やイベントによる陳列内容の変更などが非常に重要な業務となります。オカムラでは、店舗で働く人の作業負荷軽減に向け、陳列棚や冷凍冷蔵ショーケースの「スライド棚」のラインアップを充実させています。棚板を引き出しのように手前に引き出せる機構が、無理な体勢での補充作業を解消し、重量物の陳列にとまなう負荷を軽減します。また、効率アップによる作業時間短縮にも大きく貢献します。

さらに、既存の棚板をそのまま活用し、スライド棚に変更できる「スライドオン 棚用パーツ」を開発しました。既存の棚板を活用することで棚の入れ替えに伴う廃棄が少なくなり、環境への負荷が低減できます。工具不要で簡単に取り付けができ、揺れを抑えた安定した操作性とスライドロック機構を備え、安全性にも十分に配慮しています。

オカムラは、来店するお客様はもとより働く人の快適性や環境への影響を重視し、作業環境の改善や業務の効率化につながる店舗づくりを進めていきます。



スライドオン 棚用パーツ

◆ 物流拠点の作業効率向上と省力化をめざして

近年、eコマースの急増に伴う配送物量の増加、注文の小口化などにより、物流施設では個別商品単位でのピッキング作業が増加しています。こうした作業は人の手で行われることが多く、労働力不足の深刻化により人員の確保が困難になっています。オカムラが販売するロボットピッキングシステム「RightPick (ライトピック)」は、ピッキング作業の自動化により、このような物流現場の課題への対応を支援しています。本システムは、学習済みモデルの実装により、初めて扱う商品でも学習を生かしてピッキングを行うことができるなど、信頼性の高い自動化を実現します。また、オカムラの搬送機や倉庫管理システムと組み合わせることで、物流施設内のオペレーションのさらなる効率化が可能になります。

オカムラは、物流システム機器の開発・製造、導入・運用支援、アフターサービスなど、物流システムにおける一貫したソリューションを提供しており、今後も物流業務を支援する製品・サービスを通じて生産性の向上に貢献していきます。



ロボットピッキングシステム「RightPick (ライトピック)」

TOPICS

多様な働き方を可能にする空間の創出

企業において働き方改革が進展する中で、自宅など社外でのテレワーク、顧客とのウェブ会議、1on1ミーティングなどを行うための場所の確保は喫緊の課題となっています。こうした課題を解決すべく、オカムラは株式会社ブイキューブ、テレキューブ株式会社と共同で、新しいスタイルの個室空間「TELECUBE by OKAMURA」を開発しました。

「TELECUBE by OKAMURA」は、さまざまな場所に容易に設置できるワークブースです。セキュリティが保たれた静かな環境で、資料作成やメールなどの業務、電話、ウェブ会議などによるコミュニケーションが可能です。駅、オフィスビルエントランスなどさまざまな公共空間や、働き方改革に取り組む企業のオフィス内に導入が進んでおり、多様な働き方に応じて、快適で効率的に業務を行える環境を提供しています。



人が集う場の創造

◆ [WELL PLUS] マークの設定

人が健康でかつ快適に過ごせる場であるかどうかを評価するシステムであるWELL認証が、オフィス空間の評価基準として近年広がりを見せています。オカムラでは、WELL認証の取得をサポートする製品に「WELL PLUS」マークをつけて提案し、お客様のオフィス改善、オフィスの構築を支援しています。



◆ オフィス環境でのCMF(カラー・マテリアル・フィニッシュ)の提案

CMFとは、モノのサーフェイス(表面)を構成する3つの要素のことで、Color(赤・青・黄などの色)、Material(木・樹脂・金属などの素材)、Finish(光沢・マットなどの仕上げ)を指します。オカムラでは、ワクワクやドキドキを感じられるオフィス環境が、創造性を育み、効率性をもたらすとこの観点から、オフィスが素材の力で感性を刺激する場所であってほしいと考えています。じっくり集中や活発なコラボレーション、力を抜いてリラックスなど、それぞれの行動にはそれぞれに適したCMFがあると考え、製品開発や空間構築に取り入れています。一人ひとりが作業や目的に合った場所を選び、のびのびと働ける「はたらき心地」のよい空間をCMFの視点から提案しています。



オカムラウェブサイト CMF
<https://www.okamura.co.jp/product/cmfi/index.html>

VOICE

イギリスでのデザイン研修を通じて得た体験と学び



デザイン本部
 プロダクトデザイン部
 第一デザイン室 室長
 井澤 晶一

イギリス・ロンドンにあるtangerine社で約半年間、デザイン研修をさせていただきました。tangerine社はApple社の元最高デザイン責任者であるジョナサン・アイブを輩出した、約30年の歴史を持つデザイン事務所です。海外に滞在し異国・異文化のクリエイティブ環境に没入することで、新しいデザインアプローチやクリエイティブプロセスを学ぶなど、通常業務では得られないことを学ぶための研修です。

tangerine社のメンバーは若手でも優秀な人が多く、私のようなベテランにも物おじせず、年齢に関係なくプロジェクトをリードする姿勢は日本とはまったく違っており、世界のデザインコンサルの力を肌身で感じることができました。また、ロンドンは他の欧州圏へのアクセスが非常によく、週末を利用して別の国の文化に触れやすいという点で立地に恵まれており、研修の場としては最高の場所です。半年間でしたが、ロンドンで生活し、海外の会社で共に働き、デザインの手法・レベルの違いを学べたことは、自分の中で宝物になると思います。

また、tangerine社を通じて他の企業のデザイナーとのつながりができたことも大きな財産です。今後このような研修を通じて貴重な経験をする人があとに続いていくためにも、私個人として期待以上の結果を残せるよう、製品開発に生かしていきたいと思っています。

人が集う場の創造

エコデザインの追求

オカムラグループは、原材料の選択から使用後の処理まで、製品のライフサイクル全体において環境負荷がより少ない製品を開発し、お客様に提供することで、持続可能な社会づくりに貢献します。そのために、製品の企画・デザイン・設計の各段階で製品アセスメント*を実施するとともに、独自の環境基準による認定を行っています。(関連→P.78)

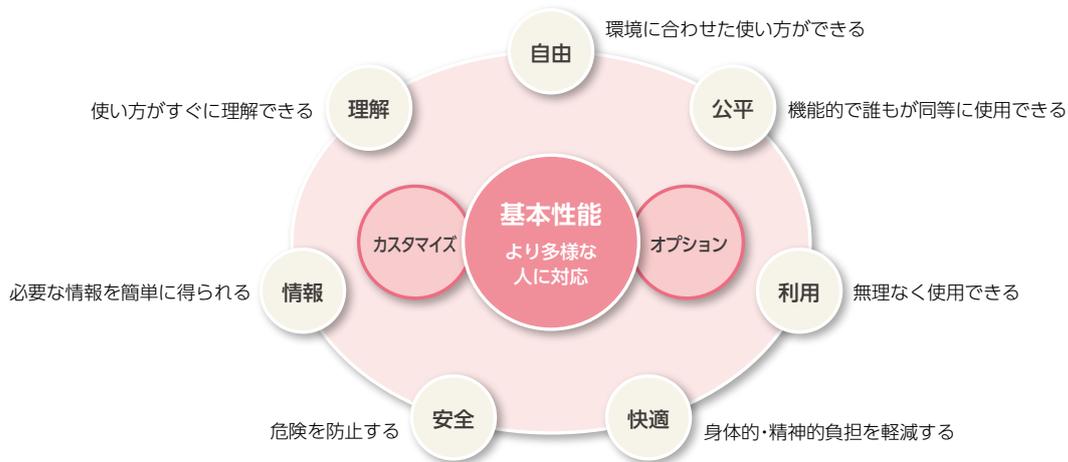
* 製品アセスメント：より環境負荷の小さい製品を開発するために、製品の開発、設計段階で、その製品が環境に与える影響を評価すること

ユニバーサルデザインの追求

オカムラグループは、誰もが豊かさを実感できるデザインを追求し、製品と空間を使用すると考えられる多様な人を想定して開発を行っています。製品の基本性能を高めるとともに、オプション

の追加やカスタマイズにより、安全性や快適性、適応性、わかりやすさ、情報へのアクセスなど、すべてのユーザーにとって使いやすい製品と空間を提供することをめざしています。

オカムラグループのユニバーサルデザインの考え方



◆ ユニバーサルデザインの普及に向けた取り組み

オカムラは、一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 (IAUD) に設立時より参画し、国際会議への協賛や協議会活動への支援を行っています。同協議会は、ユニバーサルデザインのさ

らなる普及と実現を通じた、社会の健全な発展と豊かな暮らしづくりをめざして活動しています。

人が集う場の創造

◆ 介助スタッフと利用者の両方にやさしい高齢者施設向けダイニングチェア

超高齢社会となるなかで増加が進む高齢者施設においては、介護の負担が少なく安心・安全な環境づくりが重要となっています。オカムラは、高齢者施設のダイニングルームやデイルームにおける介助動作に着目し、食事やレクリエーション活動の観察と介助スタッフへのヒアリングの結果をもとに、介助スタッフと利用者の両方にやさしい高齢者施設向けダイニングチェア「Premo(プレモ)」を開発しました。

移乗介助時にスタッフの負担を軽減できるよう、チェアを動かしやすくするハンドルを設け、長めの肘置きは、利用者が立ち座りの際に手をつきやすいデザインになっています。また、小柄な方でも床に足を付けて座れるよう座面の高さを2タイプ用意しました。体に沿った形状の背もたれと、前滑りや横倒れを防ぐ構造の座面を採用することで、姿勢を保持しやすく、食事介助時の誤嚥や食べこぼしを防ぐなど、きめ細かな配慮を行っています。



介助スタッフと利用者の両方にやさしい高齢者施設向けダイニングチェア「Premo(プレモ)」

TOPICS

多様なワーカーが共に活躍できる進化したオフィスチェア



オカムラは、足の不自由な障がい者や下肢の機能が低下した高齢者など多様なワーカーが職場で共に活躍できる環境づくりのために、佐賀大学、神奈川県総合リハビリテーションセンター、日進医療器との共創により、座ったままスムーズに移動できるオフィスチェア「Weltz-self(ウェルツ セルフ)」と「Weltz-EV(ウェルツ イーヴィ)」を発売しました。

通常のオフィスチェアは移動を前提にしていないため、着席したまま移動すると重心のズレが生じるなど、スムーズな移動は困難でした。「Weltz-self」はオフィスチェアにしては大きめの車輪が安定性を生み、軽い力の足こぎでスイスイと移動できます。車輪をイスの内側に収めることで、コンパクトなデザインを実現しています。電動駆動付きチェアの「Weltz-EV」は、一般的な電動車いすよりもコンパクトで、オフィスに溶け込むデザインです。肘掛けに備えられた操作レバーで直感的に操作でき、容易に旋回や移動を行うことができます。

車いすを使って通勤している人の中には、座り心地のよいオフィスチェアに乗り換えて働きたいというニーズがあることを知り、研究開発に着手しました。開発にあたっては、機能面だけでなくオフィスになじむよう従来のオフィス家具のデザインに近づけることを重視しました。ある程度開発が進んだ段階で参考展示を行い、また、試作品を障がい者の職場や高齢者施設で使ってもらうフィードバックを受けるなど、当事者の方々とコミュニケーションを取りながら開発を進めました。

2019年9月3日～9日に渋谷ヒカリエで行われた「2020年、渋谷。超福祉の日常を体験しよう展」に前年に引き続き「Weltz」を出展し、多くの方々に関心を寄せていただきました。ある高齢者の方からは「私たちの生活にほしかった『お金に換えられない価値』が、まさにこれです」という声もいただきました。

福祉用品の枠を超えて、すべての人に快適なイスをめざし、これからも開発を続けていきます。



アクティブムーブチェア「Weltz-self(ウェルツ セルフ)」



電動駆動付きチェアの「Weltz-EV(ウェルツ イーヴィ)」

人が集う場の創造

社会からの評価

オカムラグループは、ものづくりにこだわり、お客様に満足いただける製品を社会に送り出してきました。機能性や安全性、耐久性、信頼性などと同時に外観の美しさを重視し、製品のあるべき姿を追求する、という開発に対する姿勢は国内外で高く評価され、これまでに数々の表彰や認定を受けています。

◆ HiP Awards at NeoCon*

<HiP Awards 2019 at NeoCon ワークプレイス：ソファ部門 Winner 受賞> (2019年6月)

- ・ソファシリーズ「NAGARE」

*HiP Awards at NeoCon：INTERIOR DESIGN誌が主催する表彰プログラム。世界最大規模のオフィス家具見本市であるNeoCon発表製品とデザイナーなどの業界で活躍する人々の中から、カテゴリー別に革新的な製品や業界への功績を評価し選定される

◆ キッズデザイン賞*

<第13回キッズデザイン賞 受賞> (2019年8月)

- ・ロビーチェア「L8K2」シリーズ

*キッズデザイン賞：特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催する顕彰制度で、「子どもが安全に暮らす」「子どもが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」ために優れた製品・空間・サービスを選び、社会に伝えることを目的とする

◆ グッドデザイン賞*

<2019年度 グッドデザイン賞 受賞> (2019年10月)

- ・「はたらく」を共に考え、描くための活動「WORK MILL (ワークミル)」(関連→P.50)
- ・オフィスシーティング「mode(モード)」メッシュタイプ
- ・アクティブラーニングチェア「SALITRO(サリトロ)」
- ・マルチスツール&テーブル「Cradle(クレイドル)」

*グッドデザイン賞：公益財団法人日本デザイン振興会が主催する総合的なデザイン推奨制度で、「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じて、暮らし、産業、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的とする

◆ ウッドデザイン賞*

<ウッドデザイン賞2019 ハートフルデザイン部門 受賞> (2019年10月)

- ・もくのわ(関連→P.74)

*早稲田大学 建築学科 古谷誠章研究室、浜松市林業振興課 森林・林業政策グループとの共同応募

*ウッドデザイン賞：木の良さや価値を再発見させる製品や取り組みについて、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する制度。「木のある豊かな暮らし」が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的とする

◆ German Design Award*

<German Design Award 2020 Excellent Product Design 部門 Winner 受賞> (2019年11月)

- ・オフィスファニチュアシリーズ「Lives(ライブス)」パーソナルチェア&テーブル
- ・ロビーチェア「ALBROAD(アルブロード)」23NPタイプ
- ・アクティブムーブチェア「Weltz-self(ウェルツ セルフ)」(関連→P.47)
- ・マルチスツール「Cradle(クレイドル)」

*German Design Award：ドイツ デザイン評議会によって運営され、「Excellent Product Design」と「Excellent Communications Design」の2つの部門で構成。既に優れたデザインとして一定の評価を受けている作品の中からドイツ デザイン評議会が参加作品を推薦し、それを受け応募ができる。各カテゴリーの最優秀賞として「Gold」、特に優秀な作品に「Winner」、優秀な作品に「Special Mention」が授与される

◆ GOOD DESIGN*

<GOOD DESIGN 2019 受賞> (2020年1月)

- ・オフィスファニチュアシリーズ「Lives(ライブス)」ワークテーブル
- ・オフィスファニチュアシリーズ「Lives(ライブス)」パネル
- ・カンファレンステーブル「traverse satellite(トラヴァース テラライト)」

*GOOD DESIGN：“The Chicago Athenaeum：Museum of Architecture and Design(シカゴ・アテナイオン建築・デザイン博物館)”が主催し、革新的なデザイン、新技術、フォルム、素材、アーキテクチャ、コンセプト、機能、審美感などの面から専門の審査員によって審査される。1950年から始まった、世界で最も歴史の長い国際的に権威のあるデザイン賞

◆ Best of Year Awards*

<Best of Year Awards 2019 CONTRACT SOFA部門 受賞>

(2020年1月)

- ・ソファシリーズ「NAGARE」

*Best of Year Awards：INTERIOR DESIGN誌が主催する、投票制のデザイン業界のデザイン賞プログラム。作品カテゴリー別にその年の革新的な製品や業界への功績を称えるとともに、デザイナー、建築家、メーカーを表彰する

人が集う場の創造

◆ iFデザイン賞*

<iFデザインアワード2020 受賞> (2020年2月)

- ・ オフィスシーティング[Finora(フィノラ)]
- ・ オフィスファニチュアシリーズ[Lives(ライブス)]パネル

*iFデザイン賞：iF International Forum Design GmbHが主催し、毎年全世界の工業製品の中から優れた工業デザインに与えられる世界的な権威のある賞

◆ UNIVERSAL DESIGN COMPETITION*

<UNIVERSAL DESIGN EXPERT 2020 受賞> (2020年3月)

- ・ アクティブラーニングチェア[SALITRO(サリトロ)]&立ち姿勢サポートデスク[stafit(スタフィット) II]

*UNIVERSAL DESIGN COMPETITION：ドイツのInstitute for Universal Designが主催し、誰もが使いやすいというユニバーサルデザイン面での優れた特徴に加えて、革新性や市場性なども加味して受賞製品が選定される。審査はユニバーサルデザインの専門家グループと一般消費者100名が行い、それぞれ「UNIVERSAL DESIGN EXPERT」と「UNIVERSAL DESIGN CONSUMER」を選定

◆ レッドドットデザイン賞*

<2020年プロダクトデザイン部門 Best of the Best 受賞>

(2020年3月)

- ・ ミーティングチェア[Marca(マルカ)]

<2020年プロダクトデザイン部門 受賞> (2020年3月)

- ・ ミーティングチェア[Marca(マルカ)]
- ・ ミーティングテーブル[Marca(マルカ)]
- ・ オフィスシーティング[Finora(フィノラ)]
- ・ オフィスデスク[SOLISTE(ソリスト)]

*レッドドットデザイン賞：ドイツの「ノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンター」が主催し、世界でも最大級かつ最も権威あるデザイン賞の一つで、1955年より毎年継続して実施。「プロダクトデザイン部門」「デザインコンセプト部門」「コミュニケーションデザイン部門」の3部門において、革新性、機能性、品質、人間工学などのさまざまな側面から審査が行われ、特に優れている作品には「Best of the Best」が授与される

TOPICS

さまざまな学習スタイルに適したデザインと機能のチェア



社会の変化とともに、知識・技能の習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを身につける教育が重視されるようになってきています。学校では、教師による講義を学生が聴講する従来の形式だけでなく、学生が主体的に問題を解決していくアクティブラーニングといわれる能動的な形式の授業が実施され、企業などでは、グループワークやプレゼンテーションといったさまざまな形式による研修が実施されています。このような教育や研修においては、学習形式に応じて頻繁にレイアウトを変えることになるため、可動式の机やイスが多く使用されています。

こうした背景をもとに、教育市場実態調査に基づきアクティブラーニングに適した製品に求められる要件を整理し、アクティブラーニングチェア[SALITRO(サリトロ)]を開発しました。「SALITRO」は、さまざまな学習スタイルに合わせた姿勢をとりやすく、使用者が自主性を持って学習するのに適したイスです。背と座が一体化になったシンプルなデザインで、ワンタッチで背と座が上がります。背もたれにはハンドル部があるため、前かがみならず自然な姿勢で運ぶことができます。天板の高さを上下に調節できる立ち姿勢サポートデスク[stafit(スタフィット) II]と一緒に使用する際は、立ち姿勢の時に天板下に収めることができ、使用者は立ったままデスクとイスと一緒に移動させることが可能です。学校などの教育施設をはじめ、病院施設やオフィスの会議空間などさまざまな施設での使用に適しています。

これら2製品は、ユニバーサルデザイン等の観点から優れた製品を選定するドイツの「UNIVERSAL DESIGN EXPERT 2020」を受賞しています。



人が集う場の創造

空間創造におけるクオリティの追求

オカムラグループは、「人を想い、場を創る。」を掲げ、さまざまな施設に優れた製品とサービスを提供することで、快適で創造性や効率性が高く健康に過ごせる最適な空間を提案しています。

働き方に関する調査・研究と情報発信

社会構造の変化や技術の進歩、ライフスタイルの多様化などを背景に、働き方や働く場のあり方、生活における仕事の位置づけなどを見直す動きが広がっています。オカムラではこうした状況を

踏まえ、新たな視点から、働くことに関する調査・研究を行うとともに、他企業、学生など広範な分野の人との連携や情報発信を進めています。

◆ 「WORK MILL(ワークミル)」の活動

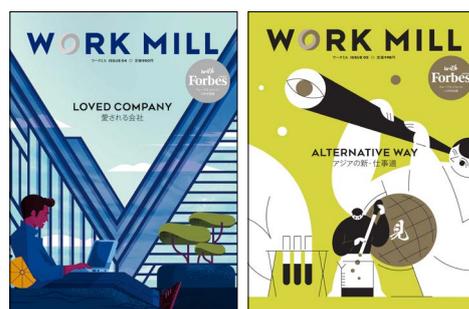
これからの働き方を探る上で、生産性を高める仕組みづくりや意識の改革など、さまざまなアプローチに加え、「働き方」と密接に関わる「働く場(ワークプレイス)」をどのように設計し、また改善していくか、という視点も重要です。こうした考えからオカムラは、働き方や働く場をさまざまなステークホルダーと共に描くことを目的とした活動「WORK MILL」を推進しています。

「WORK MILL」では、働き方や働く場に関する情報を収集して実態や課題を把握し、働く場の設計を通じてできることを探求し続けています。また、蓄積したデータや調査結果、研究結果などを、ウェブマガジンやビジネス誌の発刊、共創空間の運営を通じて発信し、活動を通じて新たな「はたらく」のヒントを得ながら、明日の社会を見つめ、考え、行動へとつなげています。

「WORK MILL」の活動は、働き方への理解を深める姿勢と、メディア運営やビジネス誌発刊などが評価され、2019年度グッドデザイン賞(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。(関連→P.48)

「はたらく」にまつわる意識調査や研究結果のダウンロードサイト
<https://workmill.jp/research.html>
<https://workplace.okamura.co.jp/solutions/download/>

WORK MILL



「WORK MILL with Forbes JAPAN」ISSUE 04(2019年4月)、ISSUE 05(2019年10月)



「WORK MILL RESEARCH ISSUE 01」(2019年11月)

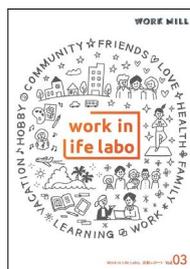
人が集う場の創造

◆ 「WORK MILL」から生まれた共創プロジェクト「Work in Life Labo.」

「Work in Life Labo.」は、オカムラの「はたらく」をともに考え描く活動「WORK MILL」から生まれた共創プロジェクトで、ワークインライフに関連したテーマを調査・分析・発信していく研究会です。他社からの参加メンバー約20名と共に、2016年に発足、2016年度の意識醸成フェーズを経て、「ダイバーシティ」と「働き方改革」をテーマとし、テーマ毎にグループで2017年度より研究調査を行っています。

「働き方改革」グループは、2019年度の活動テーマとして「テレワーク」と「副業」を設定し、その活用状況や今後の活用についてさまざまな企業にインタビューするなどの調査を実施。「ダイバーシティ」グループは、「ダイバーシティ&インクルージョン」を実践できている企業の共通点や具体的な施策を抽出すること

を目的に活動しました。2019年度をこの活動を区切りとし、3年の調査・研究で得られた結果を踏まえて、今後は実践に向けての施策検討や、仮説検証、社会への広がりへと進めていきます。



Work in Life Labo.活動レポートvol.3

◆ 共創空間での活動

オカムラは「働き方」をテーマとした共創空間として、Open Innovation Biotope “Sea”（東京）、「Cue」（名古屋）、「bee」（大阪）、「Tie」（福岡）の4か所を開設、運営しています。ウェブサイトなどでイベント情報を公開し、誰でも参加いただける場としての機会提供のほか、お客様や地域の方、学生などさまざまな方の課題解決や価値創造のニーズにお応えする共創支援を行っています。働き方改革につながる支援を目的として、「働き方」を中心とするテーマでイベントやワークショップなどを開催しており、社内企画だけでなく外部企画の共催・協力など、外部のパートナーとも連携して活動を進めています。（関連→特集 P.2）

【各共創空間での共催イベントの一例】

- ・「100人カイギ」に学ぶ、コミュニティづくりとプロジェクトベースの働き方（2019年4月、Sea）
- ・88 project トークセッション（2019年9月、Sea）
- ・東京大学稲水ゼミ合同「未来のテレワークを考える」（2019年12月、Sea）
- ・「はたらく×Cue - 共創で動かそう、組織とひと。2019」（2019年6・7・10月、Cue）
- ・「ナゴヤ100人カイギ」 Vol.1、5（2019年6・12月、Cue）
- ・「ビジネスパーソン×盆踊り＝クリエイティブ！」（2019年8月、Cue）
- ・「ラクワク思考×映画#01～04」（2019年4・5・6・7月、bee）
- ・「ダイバーシティ西日本勉強会 働きがい改革始めませんか？」（2019年6月、bee）
- ・「はたらく×bee×KOBE ラクワク（楽WORK）思考×女性 “女性のはたらき方”から生まれる、“未来のはたらき方”とは？」（2019年8・10月、bee）



<https://sea.workmill.jp/>



<https://cue.workmill.jp/>



<https://bee.workmill.jp/>



<https://tie.workmill.jp/>

- ・「シネマで考えるSDGs」（7回開催、Tie）
- ・「SDGs 理解からアクションへ～マクドナルドの環境への取り組み～」（2019年9月、Tie）

人が集う場の創造

VOICE

グローバルメディアと共創し、「未来の兆し」を探求するリサーチメディア



働き方コンサルティング事業部
 フューチャーワークスタイル戦略部
 WORK MILL X UNIT
 WORK MILL編集長
 山田 雄介

「はたらく」を考えるビジネス誌『WORK MILL with Forbes JAPAN』は2017年9月に創刊し、継続して年に2回発刊しています。未来の働き方や経営思想を「持続可能な方法で人間らしく働く」と捉え、哲学的なテーマを毎号設定し、最先端をいく地域や企業を選びケーススタディを通して紹介しています。そしてグローバルな経済誌であるフォーブスジャパン編集部とタッグを組み、一緒に企画・制作し、一つのメッセージとして雑誌にまとめることでより多くの人々に届けるようにしています。

特に高評だった「ISSUE 04 愛される会社」では、大量生産・大量消費の社会が限界の直面している現代社会において世界の消費者の意識が変わりつつあるいま、企業はどのような変化を求められているのか。「愛」というユニークな視点で企業を捉え、探求しました。

おかげさまで外部アワードも受賞し、オカムラの事業と現代社会の課題、両方につながる「働き方」を多面的に捉えたりリサーチメディアとして評価いただいています。今や働き方は日本の経営課題、社会課題です。今後も働き方や経営哲学の羅針盤となるような高いクオリティのアウトプットを目指していきます。

多様な働き方の実践と空間創造

◆ 働き方改革を実践する「ラボオフィス」

社内の部門間や外部の組織との連携を強め、新たな働き方や環境を実験・検証する場として、全国各地にラボオフィスを展開しています。首都圏には4カ所設置しており、それぞれ「CO-Dō LABO」（考動ラボ）、「CO-RiZ LABO」（考率ラボ）、「CO-SO LABO」（考創ラボ）、「KEN-CO LABO」（健考ラボ）と名付け、異なるコンセプトに基づき従業員自らが働き方改革に取り組んでいます。

各ラボオフィスに共通するのは、Activity Based Working (ABW)を実践していること。ABWとは、仕事の内容や目的に合わせて作業する場を従業員自らが主体的に選択する働き方のことで、これを可能にするために、各ラボオフィスには、執務スペース、集中スペース、協業するスペース、1on1スペース、カフェスペースなど多様なスペースが設けられています。

ラボオフィスで実験・検証を行った結果は、社内の働き方改革に活用するとともに、お客様への提案に生かしています。



CO-Dō LABO (考動ラボ)



CO-RiZ LABO (考率ラボ)



CO-SO LABO (考創ラボ)



KEN-CO LABO (健考ラボ)

人が集う場の創造

◆ 未来のオフィス空間「point 0 marunouchi」での実証実験

オカムラが参画する空間データの協創プラットフォーム「CRESNECT(クレスネクト)」の第1弾プロジェクト*として、2019年7月に会員型コワーキングスペース「point 0 marunouchi(ポイントゼロ マルノウチ)」を開設しました。このプロジェクトに参画する企業各社が持つ最新技術やデータ、ノウハウを活用し、オープンスペースや会議室、仮眠ブースなどにおいて、多様な働き方に合わせた空間コンテンツを導入しています。実際に働く人の動きや生体情報、設置機器等の運転データを収集・分析し、コンテンツの高度化や新しいサービスの創出に取り組んでいます。

*株式会社オカムラ、ソフトバンク株式会社、ダイキン工業株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、三井物産株式会社、ライオン株式会社が2018年7月30日に共同発表した、空間データの協創プラットフォーム「CRESNECT」を活用し「未来のオフィス空間」づくりを目指すプロジェクト

◆ 「テレワーク・デイズ2019」への参加

総務省をはじめとする関係省庁と東京都により2019年7月22日～9月6日に実施された「テレワーク・デイズ2019」に、オカムラは特別協力団体として参加しました。

2018年実施の「テレワーク・デイズ」に参加した際に従業員に行った調査から、テレワークの実施により交通混雑緩和だけでなく業務の効率性や身体・精神面のメリットがあることが確認できました。こうした結果を踏まえ、今回は対象となる人数を大幅に増加し、全国の約2,000人の従業員がサテライト拠点*や在宅

◆ オカムラの空間づくりを紹介

オカムラでは、空間づくりをお手伝いした事例を、冊子やウェブサイトにて紹介しています。オフィス環境事業の分野では、オフィスをはじめ公共施設や文化施設などの納入事例について、空間の紹介とプロジェクトに参画したお客様のインタビューなどをまとめて「bp(best practice)」として冊子とウェブで紹介しています。商環境事業の分野では、スーパーマーケットや商業施設の納入事例を隔月で「Stores of the Month」という冊子に、物流システム事業分野では、機器を納入した物流倉庫などの事例を「See!」という冊子にまとめています。お客様により具体的な空間イメージを持っていただくとともに、時代の変化やお客様のニーズに合った空間づくりのお手伝いができるよう、情報発信に努めています。



コワーキングスペース「point 0 marunouchi」

point 0 marunouchi
<http://www.point0.work/>

勤務を活用してテレワークを実施しました。

今後もさまざまな機会を活用して経験や情報を蓄積し、多様な働き方に関する調査・研究に反映させていきます。

*サテライト拠点：社内他拠点のことで、それぞれの従業員が通常勤務している以外のオフィス。オカムラでは、多くの拠点をサテライトオフィスとして指定し、利用を促進しています。



オフィス事例集
「bp (best practice)」



商環境事例集
「Stores of the Month」



物流システム事例集
「See!」

人が集う場の創造

品質管理の徹底

オカムラグループは、製品の品質向上に向け全社的な推進体制を構築し、品質マネジメントシステムの運用や評価体制の整備を通じて品質管理の徹底を図り、安全で高品質な製品の提供に努めています。

品質向上に向け全社的な活動を推進

製品の品質向上に向け全従業員による取り組みを進めていくために、「生産本部品質方針」を定め、意識と行動のレベルアップを図っています。また、高品質の製品の提供によるお客様満足度の向上を目的として、グループ全体での品質管理委員会を毎月開催しています。この委員会には、お客様相談室、メンテナンス部門、生産事業所、物流部門、施工部門の品質管理部門責任者が参加し、お客様から寄せられたご要望などの情報共有、課題や改善計画についての意見交換、製造現場での改善状況の確認を行っています。これからも、各部門の専門的な知見を持ち寄ることで、グループ全体の品質管理の向上に結びつけていきます。



製造現場での改善活動の様子

品質スローガン

- ・「品質を感じる見える工場づくり」を目指す。
- ・全員参加の品質活動によって、世界中のお客様に満足いただける「高質なものづくり」を目指す。
- ・新たな技術や技能の研究・開発とOPS (Okamura-Production-System)改善により、品質・コスト・納期に満足いただけるものづくりを行う
- ・組織の内外の課題及び利害関係者のニーズを理解し、リスクと機会に取り組むことにより、品質目標を達成させる。

生産本部品質方針

私たちは世界的視野に立ち「良い品は結局おトクです」をお客様に実感していただける製品を提供することに全力を尽くします。

国際品質保証規格ISO9001による品質マネジメント

オカムラグループの事業分野全体における製品品質の継続的な向上を図るため、海外を含めた各生産事業所においてISO9001*の認証を取得し、同規格に基づく品質マネジメントシステムを構築・運用しています。

品質マネジメントシステムの運用にあたっては、ステークホルダーの皆様から寄せられた数々のご意見を企画から設計、製造の各段階に反映させ、製品の機能性・安全性・耐久性を評価しながら、継続して品質の向上に取り組んでいます。

また、製造工程における高い品質水準の力量を確保するための社内資格の整備や、必要なノウハウを共有するためのデータベース構築等により、お客様に満足いただける製品を確実に提供するための体制を整えています。

* ISO9001：国際標準化機構 (ISO) が定める品質マネジメントシステムの国際規格

人が集う場の創造

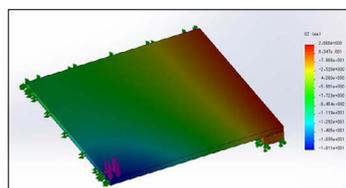
製品の安全性評価

オカムラでは、お客様に製品を長く安心してお使いいただくために、設計段階でJIS*¹や海外規格を参考に、厳しい社内基準を適用し、CAE*²による各種解析、試作品による性能試験と耐久性試験を繰り返し行い、製品の品質と安全性を評価・確認しています。また、施工・物流・販売部門からの声をフィードバックし、関連部門との連携により製品の安全性向上につなげています。

- * 1 JIS：日本工業規格。工業製品の品質・安全性・互換性確保のための国家規格
- * 2 CAE：Computer Aided Engineering。コンピュータ上で設計したモデルを使い、強度などの解析を行う技術



天板の耐久性検証試験の様子



天板構造解析モデル

人が集う場の創造

ものづくりを支える人財育成

オカムラグループは、生産現場でのものづくりを支える優れた人財の育成に向け教育訓練体制を整備し、長年にわたって培ってきた高度な技術・技能の継承に努めるとともに、従業員の資格取得も重視し、全体のレベルアップを図っています。

技術技能訓練センター

高品質の製品を支える優れた人財を育成するために、2011年に技術技能訓練センターを開設し、各種プログラムを通じてものづくりに携わる従業員の教育を行っています。

受講者数は年間約300名にのぼり、対象となる従業員は通常の業務から完全に離れて集中的に教育を受けます。例えば、基礎技能分野の「リーダー育成コース」は、ものづくりにおける精度・品質を確保するための原理原則について、2カ月間かけて習得する力

リキュラムとなっています。熟練の講師陣から直接指導を受けることができるため、ものづくりに取り組む姿勢も学ぶことができ、現場力の向上につながっています。

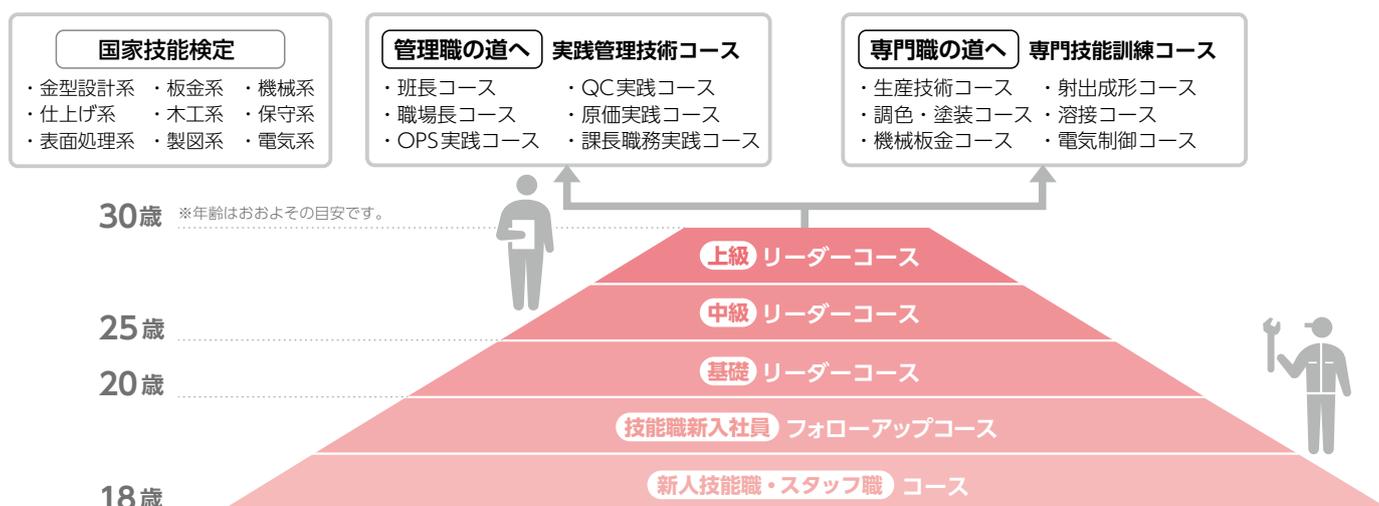
また、新入社員研修において、営業職やデザイナーなどが参加する集合研修を同センターで実施し、ものづくりにおける考え方や姿勢を学ぶ機会を設けています。

国家技能検定資格取得の強化

オカムラグループでは、従業員の国家技能検定の取得促進にも力を入れており、これまでの合格者数は延べ782名を超えています。技術技能訓練センターでは、電気系、板金系、表面処理系、金型設計系、製図系の国家技能検定に対応できるコースを用意し、

生産事業所の実務経験3年以上の希望者が受講できるようにしています。資格取得者については、すべての事業所で社内ボードに貼り出し、従業員の取得意欲の向上を図っています。

技術技能訓練センターでの教育プログラム



技術・技能の継承

各生産事業所では、ものづくりに必要な高度な技術・技能の継承に努めています。生産活動が安全かつ円滑に行われるとともに、

製品の品質を維持・向上させるために、各職場でスペシャリストを育成しています。

人が集う場の創造

◆ 「現代の名工」による技術・技能の継承

技術技能訓練センターのセンター長の畑岡耕一は、1966年に入社して以来、オフィス家具の試作や設計業務に従事。業界初となる軟質発泡ウレタン表皮一体成形工法を確立するなど、日本のオフィスチェアの機能やデザインの向上のために力を注いできました。その功績が認められ、2016年に「卓越した技能者（現代の名工）」*1として表彰されました。現在も後進の育成に情熱を注ぎ、ものづくりの技能を継承しています。

また、厚生労働省の若年技能者人材育成支援等事業（ものづくりマイスター制度）*2に基づく「ものづくりマイスター」にも認定・登録されており、学生のみならず工業高校の教諭の方々にも技術の指導を行ってきました。今後も、オカムラが培ってきた技能や社内の人材の優れた能力、経験を生かしながら、若年技能者の育成に貢献していきます。

- *1 「卓越した技能者（現代の名工）」表彰制度：技能者の地位と技能水準の向上を図ることを目的として、卓越した技能を持ち、その道で第一人者と目されている技能者を厚生労働大臣が表彰する制度
- *2 若年技能者人材育成支援等事業（ものづくりマイスター制度）：ものづくりに関して優れた技能、経験を有する者を「ものづくりマイスター」として認定・登録し、「ものづくりマイスター」が技能競技大会の競技課題などを活用して中小企業や学校などで若年技能者への実践的な実技指導を行い、効果的な技能の継承や後継者の育成を行う事業



センター長の畑岡による指導の様子

◆ 技能五輪全国大会出場を通じた技術・技能の向上

技能五輪全国大会は、次代を担う青年技能者に努力目標を与えるとともに、大会開催地域の若年者に優れた技能を身近に触れる機会を提供することを目的とした技能競技大会です。オカムラでは、地域ごとの予選会を経て2013年から連続で全国大会への出

場を果たしています。この大会での受賞を目標に訓練を重ねることが、技術・技能の向上、また職場における指導力の向上にもつながっています。

VOICE

技能五輪全国大会への挑戦と人材の育成（受賞者・指導員）



生産本部 技術技能訓練センター 佐久間 音郎（左）

第57回技能五輪全国大会「曲げ板金職種」で敢闘賞受賞

曲げ板金職種は、平面の板材から立体の製品を製作する一連の作業で、展開ケガキから始まり、切る、叩く、曲げる、つなぐという工業製品の製作に必要な広範囲な作業内容が含まれています。大会に向けた訓練では、本体下部の内側フランジにくびれができてしまうため当て板を木材から鉄に変更したり、溶接外観を細くするため、課題の4倍の長さのアルミ溶接を繰り返し訓練したりと、初めての加工技能に、先輩指導員のもとで、トライ＆エラーの連続で対策を進めていきました。

大会当日は会場である名古屋まで応援しに来てくれた母、一生懸命考えて共に悩んでくれた指導員の方々、大きな垂れ幕の寄せ書きの応援メッセージのおかげで入賞することができたのだと思います。次回の第58回技能五輪全国大会に向けては、大会へのチャレンジ3年目という自覚と、後輩につなぐ責任感を持って、金メダルを取れるよう訓練をしていきます。



生産本部 技術技能訓練センター 雪田 大（右）

技能五輪への挑戦は、人間力も養われると考えています

技能五輪選手として銅メダルを受賞した経験から、今年は後輩の指導にあたりました。

目標を達成するためのプロセスを学ぶ訓練のひとつとしてフルマラソンへの挑戦を取り入れています。各自が完走のための対策を考え、それを実行し、走り終えた後、自分の立てた計画を振り返ることで自分をより深く知り、自分に合った対策を行うことができるようになっていきます。こうした経験が、生産現場で活躍できる人間力を向上させていると思います。

指導員としては、選手とのコミュニケーションを大切に、単にやり方を教えるのではなく、それぞれの長所を生かしながら一緒に問題を解決していくようにしています。今後も毎年メダルを持って帰れるように選手の長所を見極めた指導をしていきたいと思っています。